

総論

- GIGAスクール構想の下で児童生徒の1人1台端末や学習系ネットワーク等が整備された今日の学校を前提とし、校務の情報化については、短期的に目指すべき目標と併せ、中期的・段階的に目指すべき方向性を示すような取りまとめを目指してはどうか。
- 校務の情報化が短期的に目指すべき目標においては、学校の教職員のみならず、教育委員会職員や保護者等の関係者の負担軽減も目指すことが望ましいのではないか。
- 校務の情報化が中期的・段階的に目指すべき方向性においては、学習系データと校務系データの連携の観点や、既存の紙ベースの業務フローの見直しを含む、デジタル化の質を高める観点も重要ではないか。
- それぞれの地域は、その地域を取り巻く環境や首長部局も含めたICT化の状況、既存の業務システムやネットワーク構成など、地域ごとに異なる実情を踏まえつつも、中期的・段階的に目指すべき方向へ着実に進んでゆくべきではないか。

各論：短期的に目指すべき目標

- 教職員の負担軽減の観点から校務の情報化の在り方を考える際は、クラウドサービスの活用を検討することが望ましいのではないか。
 - 当面オンプレミス型の校務支援システムを活用する場合であっても、できることから効率化するため、汎用的なクラウドサービスの活用を検討することが望ましいのではないか。
 - クラウドサービスの活用は、大規模災害や感染症による緊急時における業務の継続性確保にも役立つのではないか。
 - 授業等で活用している汎用的なクラウドサービスを活用した校務処理経験の蓄積は、授業等におけるクラウドサービスの活用にも良い影響を及ぼすのではないか。
- 保護者等との連絡・情報交換に関する業務の効率化においても、クラウドサービスの活用を検討することが望ましいのではないか。
- 以上の観点から業務の効率化を進める上では、既存の校務支援システムで処理すべき校務と、汎用的なクラウドサービスを活用すれば足りる校務を分けて考えることが適切ではないか。
 - クラウドサービスの活用に当たっては、例えば適切なセキュリティが確保されているサービスを利用するなど、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を踏まえて進めるべきではないか。

各論：中期的・段階的に目指すべき方向性

- 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」も踏まえ、ネットワーク分離によるセキュリティ確保からアクセス制御によるセキュリティの確保への転換を目指すとともに、校務支援等のクラウド化を進めるべきではないか。
 - アクセス制御への転換や校務支援等のクラウド化は、できるところから少しずつ変えていくという姿勢が重要ではないか。
- 1人1台端末により得られた学習系データと校務系データの連携を進めるべきではないか。
 - 学習系データと校務系データのスムーズな連携は、教職員等の負担軽減につながるのではないか。
 - 家庭や学習の状況と組み合わせた分析や、学校段階をまたぐデータ連携は、教育の質の向上にもつながりうるのではないか。
 - 行政系データとの連携も整理が必要ではないか。
 - データの取り扱いに関するルールの検討も必要ではないか。
- クラウド上での個人情報の取り扱いについて、個人情報の保護に関する制度改正も踏まえた対応が必要ではないか。

各論：その他

- 学習系データと校務系データの連携を想定した標準化等も含め、校務の情報化において、様々な観点を考慮したモデルを研究・開発する必要があるのではないか。
- 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を教育委員会等へ周知・普及啓発していくとともに、クラウドサービスをより活用しやすくする観点での改訂を随時進めていくべきではないか。